

ムーンショット型研究開発制度に係る 戦略推進会議（第 7 回）

目標 4 及び 5 における 外部評価結果とポートフォリオの見直し等 について

（令和 5 年 1 月 13 日戦略推進会議（第 7 回）資料等より抜粋・要約）

ムーンショット型研究開発制度に係る 戦略推進会議の進め方等について

ムーンショット型研究開発制度の概要

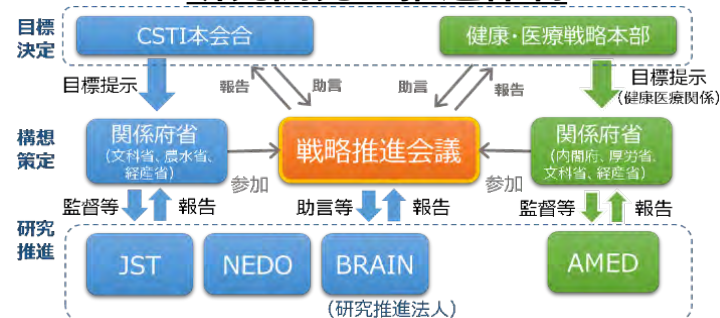
- 超高齢化社会や地球温暖化問題など重要な社会課題に対し、人々を魅了する**野心的な目標（ムーンショット目標）**を国が設定し、挑戦的な研究を推進する制度。
- プロジェクトを統括する**PDの下に、国内外トップ研究者が集結。ポートフォリオ**を構築、**ステージゲート**で柔軟に見直すと共に、スピンアウトも推奨。
- 総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)、健康・医療戦略本部が目標を決定。
産学官で構成する**戦略推進会議を設置**し、関係府省や研究推進法人が連携。

達成すべきムーンショット目標

目標 1 :	2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現
目標 2 :	2050年までに、超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現
目標 3 :	2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現
目標 4 :	2050年までに、地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現
目標 5 :	2050年までに、未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ・ムダのない持続的な食料供給産業を創出
目標 6 :	2050年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性型汎用量子コンピュータを実現
目標 7 :	2040年までに、主要な疾患を予防・克服し100歳まで健康不安なく人生を楽しむためのサステイナブルな医療・介護システムを実現
目標 8 :	2050年までに、激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会を実現
目標 9 :	2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現

“Moonshot for Human Well-being”
(人々の幸福に向けたムーンショット型研究開発)

研究開発の推進体制



予算について(基金)

H30年度補正予算で1,000億円、R元年度補正予算で150億円を計上して基金を造成。令和3年度補正予算で800億円追加。最長で10年間支援。

	文部科学省 JST	経済産業省 NEDO	農林水産省 BRAIN	内閣府(AMED室) AMED
H30年度2次補正	800億円	200億円	-	-
R元年度当初	16億円	4億円	-	-
R元年度補正	-	-	50億円	100億円
R2年度当初	16億円	4億円	1億円	2億円※
R3年度当初	16億円	4億円	1億円	2億円※
R3年度補正	680億円	40億円	30億円	50億円
R4年度当初	29.6億円	4.8億円	1.6億円	3億円※
R5年度当初予算案	29.6億円	4.8億円	1.6億円	3億円※

※文科省、厚労省、経産省

戦略推進会議について

設置趣旨

研究開発の戦略的な推進、研究開発成果の実用化の加速、関係府省や関係研究推進法人の間の効果的な連携・調整を図るため、**産学官から構成される戦略推進会議を設置**。

役割

- (1) 原則として、毎年度、研究推進法人から進捗等の報告を受け、ムーンショット目標の達成に向けて、全体俯瞰的な視点から、**プロジェクト構成の考え方、資金配分の方針等に関して承認・助言**を行う。
- (2) **研究開発成果の橋渡し、民間との連携、官民の役割分担を踏まえた適時の民間投資の呼び込みを含め、研究開発成果の社会実装に向けた方策を助言**するとともに、**研究開発成果の社会実装等に関する支援**を行う。また、国際連携を促進するための助言も行う。

